『人との関わり』の大切さを強く実感し、価値ある経験ができた

Ｈ．Ｔ．　　立教大学　文学部　フランス文学専修学科　進学
鉾田市立　鉾田小学校　卒業

私はGLAC（国際教養コース）に所属していましたが、幼い頃から英語が得意だったわけではなく、テストでの成績もあまり良いわけではありませんでした。しかし、得意ではないけれど英語は好きだったのもあり、また何より新しくできたこのコースに興味を持ち、先生方の後押しがあって国際教養コースへと入学しました。自分が２期生目なので、唯一の同じコースの先輩方とうまくやっていけるかなど不安なところもたくさんありましたが、保護者や茨中・茨高の先生方の支えがあり、３年間充実した高校生活を送ることができました。国際教養コースでは、高校２年次に全員が約半年間の留学をできること、一般の高校生では経験できない英語中心の授業がカリキュラムに組まれていました。高校１年の時から、留学へ向けての英語力を向上するためのPractical English や日本以外の海外の異文化を学ぶための Academic skills などが組まれています。そのため、３年間で着実に必要な英語力と留学に必要な異文化理解を学ぶことができました。高校２年の時の留学では、最初は色々な不安がありましたが先生方のサポートや実際に留学をサポートしてくれる方々がたくさんいたので無事に日本を旅たち、半年間を充実させることができました。留学中も月に一度の頻度で、ネイティブや英語科の先生方と面談ができたので精神的に大きく支えてくれました。私はコロナ禍の影響で日本に帰国するのが高校２年の２月頃だった為、すぐに受験モードへと切り替えられるか不安でしたが同級生の仲間たちと共に切り替えることができました。受験期になると、進路や勉強の進捗などの関係で精神的に辛い時期が続きましたが、そこでも留学中で得た忍耐力が大きく役に立ちました。またそこで自分の英語力の伸びを実感することもできます。特にリスニングやライティングの能力の伸びは実感できました。私は結果的に指定校推薦での大学への進学となりましたが、そこまでの過程にもAOや自己推薦などの自分の留学経験や強みを活かせる入試方法に挑戦しました。そんな時にも、先生方は相談する毎に違う入試方式やその為の対策を教えてくださいました。

私は、中学から高校の６年間サッカー部に所属し、中学の３年間で出来た仲間たちに加えて、高校からの仲間が入ってくることでたくさんの人と関わることができました。しかし、スポーツは自分の弱さが顕著に見えてしまうものである為、何度も諦めかける時がありました。ですが、最後までやり切った先輩たちや真剣に取り組む仲間たちに影響を受け、６年間最後までやり遂げることができました。部活動の経験は、留学中の言語の壁を壊してくれたり、また受験期にも活きてきました。

茨中・茨高の良いところは、中学からの関わりが高校でも活きてくることだと私は思います。これは友達もそうですが特に先生方との関わりが深くなっていくことは中々経験できないことだと感じました。そのおかげで、勉強面でも苦手な部分やわからない所を気楽に先生に聞けました。また文化祭などの行事の面でも実感できます。生徒だけでなく先生方とも一体となって文化祭を作り上げていくことができました。縦の繋がりも強固なもので、特に部活動では６年間を一緒に過ごした先輩が多いため、高校を卒業した後のコンタクトも取ることができたりもしました。このような『人との関わり』の大切さを強く実感し、中学から高校の６年間を過ごすことができることは自分にとって価値ある経験になりました。それが本校の掲げる『報恩感謝』であったことが卒業するときに感じることができることも茨中・茨高の良い所だと私は思います。

大学進学後は、高校時代に身につけた英語に加えてフランス語などの第３言語の取得に力を注ぎ、国に縛られずたくさんの人と関わることのできる仕事に携わりたいと考えています。茨中・茨高での学びや『報恩感謝』の精神を忘れずに大きく飛躍していきます。